

第5回  
平戸市総合戦略策定委員会  
会議録

と き：平成27年12月15日（火）13：30～15：27

ところ：平戸市役所3階大会議室

○日時

平成 27 年 12 月 15 日（火） 13 : 30～15 : 27

○場所

平戸市役所 3 階大会議室

○出席委員（氏名 50 音順、敬称略）

赤木、荒木、田中、寺田（勝）、石川、竹田、富崎、豊増、古川、松尾、松山、  
行成

○欠席委員（氏名 50 音順、敬称略）

田淵、寺田（孝）、西原

○次第

1. 開会
2. 報告事項
  - ①会議録の確認について
3. 議事
  - ①平戸市総合戦略案について
  - ②その他
4. 閉会

○会議資料

- ①平戸市総合戦略案
- ②総合戦略・人口ビジョンの全体像

○会議参考資料

- ①平戸市総合戦略策定委員会での各委員からの意見
- ②市民アンケートにおける、「本市の施策に対する満足度」に対する主な取り組み

(13:30 開会)

◎事務局

皆様こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから第5回平戸市総合戦略策定委員会を始めさせていただきます。

本日は、12月2日に予定しておりました本会議が本日に延期となりましたことを心よりお詫び申し上げます。どうも長いことお待たせいたしました。

本日の委員会は、前回の第4回策定委員会におきましてご審議いただきました総合戦略の素案につきまして、さらに内容を精査充実させて、再度、今回、素案という形での提示をさせていただいております。どうぞ慎重にご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

本日は、田淵委員、寺田隆弘委員、西原委員より欠席の申し出がございましたのでご報告させていただきます。

それでは、報告事項に入らせていただきたいと思います。本委員会の議長は、平戸市総合戦略策定委員会設置要綱第6条の規定によりまして、会長が行うこととなっておりますので、石川会長、よろしくお願いたします。

■会長

皆さんこんにちは。会議が延期ということで、私の方の日程もなかなか空いた時間がないので、今日のこの時間に設定させていただいたため、皆様方にはお忙しい中突然出てきていただいたり、また今日欠席された委員の方もおられたかと思えます。また、欠席された委員に関しては、意見をまた伺うことができますので、またそうしたところで補う形になるかと思えますが、ちょっとこの時間帯ということで設定させていただきました。

今日も午前中2つ授業がありまして、このあと5時半からセンター試験のリスニングのリハーサルというのがあるのですが、平戸と佐世保はすごく近くて、1時間弱で行き来できるので、その点ではすごく助かっているかとは思いますが、時間の設定はいつもと同じ時間にできたかと思うのですが、日程がずれたために委員さんにもご不便をかけたかと思えます。

それでは次第に基づきまして、まず報告事項の①の会議録の確認について説明をお願いします。

◎事務局

まず、資料の確認を行わせていただきたいと思います。12月10日にお送りしております第4回の総合戦略策定委員会の会議録、資料①といたしまして平戸市総合戦略の素案、そして1枚物のA3、ちょっと大きめの紙ですけれども、人口ビジョンと総合戦略の全体像という大きい紙、そして策定委員会での皆様からいただきました意見、そしてその対応等についてまとめたもの3枚で裏表に印刷しているもの、そして、市

民アンケートにおける本市の施策に対する満足度に対する主な取り組みということで1枚物、裏表で印刷しているものでございます。皆様お持ちでしょうか。それと、本日の会議の次第を配布しております。よろしくお願いいたします。

会議録ですが、今までと同様、基本的に要点筆記で公開という形で作成しているところでございます。一点、修正箇所でございますけれども、15ページの13行目で、委員の方の発言のところ「生月と春日港」ということで、春日の港という表記をしているんですけども、「春日講」、講義の「講」に修正をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

その他、見ていただきまして、会議録の内容で不明な点とか修正等があれば、今週いっぱい、18日を目途に事務局まで連絡をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ■会長

既にご覧いただいた方もおられるかもしれませんが、18日までにも不明な点とか修正すべき点があったら伝えてくださいということですが、今何か皆さんの方でこの点でご意見等ありませんでしょうか。なければそういう形で進めさせていただきたいと思います。

では、本日の議事に入らせていただきます。

まず、議題の1番目ですけれども、平戸市総合戦略案についてということで、まず事務局の方から説明をお願いします。

#### ◎事務局

それでは説明させていただきます。

#### 【①平戸市総合戦略案について】の説明

#### ■会長

今日は残りの審議は大体これが中心になるかと思うので、いつも2時間、大体3時半ぐらいの予定で皆さんの方は委員会に出てきていただいているかと思いますが、時間はたっぷりあるかと思います。そして、今の説明でいろいろ質問等があると思いますし、量が多いので、前から細かく分けて聞いていった方がいいかなと思います。また、途中で思い出されたところがあれば、そこでまた前に戻っていただいてもいいかと思いますが、一応こちらの方、基本目標が4つということなので、それを個々に区切って意見を聞きたいと思いますが、まずは第1章、7ページのあたりぐらいまでで何か、この素案でご意見等がありましたらよろしくお願いいたします。

#### □委員

5 ページの数値目標についてのページですが、産業の振興とか雇用の促進の横に、右側にサブタイトルのようなものが新しくつけてらっしゃいますが、産業の振興のサブタイトル、「しごとをのばすプロジェクト」というのを銘打ってあるのですが、これは部会とかでこの言葉を探られたときに、「のばす」よりほかの言葉が出ましたか。それをお聞きしたいと思います。「のばす」で適当かなと思ったりしたものですから。

#### ◎事務局

実は、このサブタイトルにつきましては、部会の方ではございませんでした。事務局の方で作る中で、サブタイトルを作っていこうという中で、市長、副市長をはじめ協議をしていく中で、最初は、これは全部「つくる」シリーズでした。つくと。ただつくとすれば芸がないと申しますか、分けた方がはっきりしているんじゃないかということで、私どもの方で、行政側の方で作らせていただきました。

#### ■会長

もし何かもっといい案があったら言っていただいて、サブタイトルなんかいないという案も。

#### □委員

いります。これはものすごく効果的だと思います。「拡げる」とかどうかと思ったりしたんですが、この中に含まれるものを考えたら、やっぱり「のばす」がいいのかなと。「拡げる」は拡大の「拡」ですね。別にこれがよくないとは言っていない。

#### ■会長

ご意見があればお願いします。雇用の促進がしごとをふやす、産業の振興がのばすと、こちらは、言ってみれば成長とかいう意味合いでのばすという言葉が使われたのかなと思ったりしたんですけれども。もしもうちょっといいアイデアがあれば、事務局の方でも参考にさせていただければと思います。

他にございませんでしょうか。7 ページあたりまでで見ていきたいと思っています。

#### □委員

3 ページの推計人口ですが、2040 年が 2 万 2461。2060 年が 1 万 9271 ということで、これはそれぞれ切り上げるということでもいいですか。それぞれ 2 万 3000、2 万人と。

#### ◎事務局

そのとおりでございます。2040 年に社会移動均衡をさせる。合計特殊出生率を 2.24 から段階的に 2040 年には 2.5 に上げるという時に試算した数字が、今、委員が言われた 2040 年で 22,461、2060 年で 19,271 の数字。一応計算上の数字です。それを切

り上げて 23,000 人、2 万人ということで目標をそういうふうにしております。

■会長

ここのグラフのラインが 2 つあるんですけれども、その説明がないんですよ。多分平戸市で考えているのは上の方のグラフだと思うんですけれども、下の方のグラフが何を意味しているのかというところの記述が。

◎事務局

表記をします。

■会長

他にございませんでしょうか。またお気づきの点があったら前に戻るということも。

□委員

さっきの 5 ページのところですが、産業の振興の平戸に期待したものについての満足度という基本目標 2 のところがあると思うんですけれども、これはアンケートをやられるんですか。これは市民アンケートとかはちょこちょこ見ましたけれども。

◎事務局

観光アンケートでございます。

□委員

観光客に対するアンケート。

◎事務局

そうです。

□委員

期間としては、総合戦略の期間いっぱいまでずっと期間を取って。

◎事務局

毎年観光課の方で、アンケートをしているんですけれども、その数字をずっと使っていくという形での検証をしてまいりたいと思います。

■会長

既に今も同じようなアンケートがあって、基準値というのが 65.3 なので、これだけだったということですよ。

□委員

さっきのサブタイトルは「のばす」。見ると漁業就業者数は1,627から1,520で両方とも下がっていますよね。なるべくダメージを抑えようというあれだと思うんですけども、だったら「守る」とか、そういう表記の方がいいのかなとちょっと思いました。「仕事を守る」。以上です。

■会長

なかなかどういう言葉を選んだらいいか、語呂合わせでうまくいった方がいいんでしょうけれども、「ふやす」、「のばす」、「そだてる」、「つくる」となっていますけれども。

他にございませんでしょうか。それでは、基本目標1のところを中心に次は見たいと思います。もし思い出したことがあったら前の方に戻ってもいいかと思えますけれども、こちらの方からご意見がありましたらお願いします。

このところは、特に前半のA)、イ)のあたりは新規の事業がなかったですね。新規も既に決まっているというか、それぞれの部署で決まった事業が入っているという形だったと思うんですが。皆様からご意見をお聞かせください。

□委員

9ページの数値目標のところ、ハローワークを通じた就職者数が356、360のところですが、ここは雇用就労機会の均等拡大とか、職場を増やそうとかいろいろ言う割には、数値目標の設定がこのぐらいなのかなと思っているのですが、これは根拠としては、このぐらいしか伸びないということなのでしょうか。

◎事務局

一応、この数字が単純に就職した人数のカウントです。例えば、一つの会社を辞めて別の会社に入る場合は1というふうにカウントされる数字なんです。職を転々としている人は数字が余計にカウントされるというのが実情な状況です。ですから、この数値としては、現状の維持をするというようなことで、就労機会を確保するというところで現状数値をしているところでございます。

□委員

ハローワークを通じたということでしょう。ハローワークを通さない就労というのはここには現れてこないということですよ。

◎事務局

実際カウントができないんです。商工会議所さんとか、商工会の方にもお聞きした

のですが、自分たちも会員がすべて入っているわけではないので、数字が出せないというお話だったんです。測るにはハローワークの数字が一番確実な数字として現れているということでございます。

#### ■会長

この新規就職者数というのは、これは再就職とどのように基準が違うのでしょうか。新規というと、大体高卒とか大卒というのをイメージするのですが。

#### □委員

大体お辞めになられてから、新たに就職される方は新規就職で上げておりますので、先ほど言われました離転職を繰り返すとその方は何回もカウントされるというのは、この数に入ってきますのであれなんですけれども、全体的に今は景気が良くなっているかどうかわからないんですけれども、ハローワークに来られる求職者の数が減っていますので、なかなか今後、それがずっといくというわけではないでしょうけれども、また景気が悪くなると求職者が増えますので、そういった中で就職が増えるというのがありますので、ちょっと将来的なところが不確定な部分なんですけれども、そういったところで現状維持というところで今のところだと思います。

それと、市民アンケートの上の27年度が31%という事で、約20%ぐらい上げるという目標なんですけれども、その辺はどうなんでしょうかということ。なかなか20%、ここでは働き続けることができる環境にあるという割合を増やすということですが、そういった中では、さっき私も以前言った、地元企業さんの労働条件とかそういったところも、やはり佐世保市さんとかと比べるとちょっと見劣りするところもあるので、そういったところは何とか佐世保並みまで引き上げるような取り組みも必要かなと思うんですけれども、そういったところをやっていながら、結構平戸にいて佐世保に就職された方もいらっしゃるでしょうから、そういったところ20%上げるということちょっと厳しいのかなと思いますので。

#### ■会長

今は交通の便もよくなったので、特に田平の方からだと平戸に就職というケースもあると思うので、1つは、市内の事業所の就業者数を維持するというのも大事だけれども、住んでいる人の雇用を維持するという形で、市内の住民の就職率、就業率というか、それを高めるような目標もあってもいいのかなと思いますね。

実際には、この市内の事業者数の数値もやっぱり守るといえるのか、増やすというよりもそんなに数字は変わっていないんでしょうけれども、おそらく人口が減少していく中で、これだけの雇用を市内で維持するというのは大変な目標であるかなと思います。それにハローワークの新規就業者数も連動しているところがあるかと思いますが、それ以外に、通勤スタイルでこちらに住んで他に働くという形のこと視野に

入っていくということもいるのかなと思いますけれども、そこは雇用の促進というよりも、定住とかそういうふうなところとも関わってくるかなと思いますけれども。

□委員

今の件でお尋ねしていいですか。就職環境を佐世保並みにというのは賃金の面ですか。

□委員

賃金の面とか、労働条件の福利厚生関係とか、そういったところも中小零細さんだとちょっと厳しいところもありますので、そういったところも何とか上げていただければ、おのずと地元就職というのにも増えるんじゃないかと思いますけれども。例えば厚生労働省でもそういった福利厚生をよくするための助成とか、そういったのも監督署の方でもあるんですが、そういった助成を独自でやるということのも有効じゃないかと思います。

■会長

新たなご意見とか出ましたけれども、もしまた検討していただければ、次回でまた出していただきたいと思います。

□委員

全体的に見て、数値目標については根拠があつての最大の数を上げたと思います。できるだけ数字に向かって頑張っていこうというような数値目標だと思います。

それから、これは別なんですけれども、平戸は歴史的に見て 1600 年の当初は日本で唯一の貿易港として栄えたということで、当時を目をつぶって考えてみれば、特に崎方方面にはいろんな国の人たちが貿易をしに平戸に来ていたという部分で、これも全体的な部分ですけども、やはりもう少し平戸の過去の歴史から見て、国際色をもう少し出した方がいいんじゃないかと思います。

その中で 12 ページですが、主な事業の新規で、インターンシップを取り入れた就労支援事業とあるんですけども、これは日本国民というか、国内のことだと思うんですが、例えば、留学生が県内にもいらっしゃると思います。特に県立大とか国際大の方には、いろんな国の方がいらっしゃって、ここでは福祉関係とあるんですけども、観光を勉強したいとか、日本の商業を勉強したいとか、貿易をしたいという方々が、たぶん留学生の中にはいらっしゃると思うので、この部分については日本人に限らず、もう少し歴史を考えてみた場合に、国際的な感覚を身に着けるために平戸でこのようなインターンシップを取り入れて学生を呼ぶというようなことをやったらいいんじゃないかなという提案なんです。これは歴史的な部分で、結構平戸も教科書に出てきますし、子どもたち、地元の人たちにも植えつけながら、よそとの交流をしな

がら国際社会人を作っていくという意味でも有効になる。一部国際色については観光の部分とか産業の部分には載っているんですけども、他の部分でも国際色が出せる事業があれば、その中で国際的なとか、グローバル的なという文言を入れたらどうかなと思います。

#### ■会長

新たなお意見がありましたけれども、例えば、インターンシップは今、どこの大学もどんどん積極的にしていくということで、私の大学でも新しい学部が1か月のインターンシップをいろんな学部学科でさせるということを考えていて、そのための受け入れ先を佐世保市を中心にして探しているところです。平戸までとなると交通費の問題とか、宿泊ということになったら、そうした問題もあったりするので、もし平戸市の方で留学生インターンシップに力を入れていただければ、そうしたところのサポートをしていただけたらすごく助かるかなというふうに思います。もちろん、受け入れ先で何を学ばせるかということも大事かと思うんですが、ホテルとか観光関係の事業所なんかで期待できる場所はあるかなと思うんですが、そこは大学の方は国際大も県立大も、また福岡の方の大学も積極的に協力していただけたらと思います。

#### ◎事務局

実は、今のお話が、私も説明が深掘りしてなくて申し訳なかったのですが、20ページの主な事業の4番目に産官学連携による観光人材育成事業、この中に県内の大学と連携して留学生のインターンシップの受け入れを行う。留学生が宿泊施設や観光案内に勤務し、外国人の受け入れ対応を行う。概要には載っていませんでしたが、そういうものを含めた事業としての位置づけを4番目のところには考えております。

#### ■会長

これは新規ということなので、これから。

#### □委員

ですから他にも、これは一例ですので、他にも農業とか、他の分野でもあると思うんですよね。ですからそういう部分でもう少し掘り下げたら、これは国際化、グローバル化に平戸の歴史的な背景を考えた場合に、今のは一部であって、他にもいろいろな考え方があると思うんですよ。ですからもう少し広く考えて欲しいということです。

#### □委員

今に関連して、今、先生がおっしゃった旅費とか宿泊の問題なんですけど、大島では去年、国際大学の生徒を空家に受け入れました。そこで自炊の形をとっていただいて、宿泊費はそこで浮かせるとか、大島にもいっぱい伝建で空家がいっぱいあるし、

そういうのをもっと活用されたらいいかなと思います。

#### ■会長

そうですね。一応大学側としては、そのへんの費用が一番問題なわけで、インターンシップ先も佐世保を中心という形ですが、そうしたところで市の教育なんかもあったりすると、例えば水産関係でもひょっとしたら長大有りますし、留学生がどれだけ来ているか私は実態をよく知りませんが、そうしたところからの留学生のインターンシップも得られるんじゃないかと思っています。

一応、今の問題は事業として新規で行われているんですけども、まだそこを具体的にどうしていくかというのをこの委員会でも見守っていく必要があるかなと思います。他にございませんでしょうか。

#### □委員

ここに増やしていただきたいと思ったのが、10 ページですが、若者やUターン、Iターン者に向けたというのをテレビでちょっと言っていたんですけども、孫ターンというのものもあるみたいなので、それも含めてはどうかかなと思いました。孫に向けて、例えば両親がこの出身で大阪に出ていたりして、孫が両親のふるさとである平戸に興味を持って、ばあちゃん、じいちゃんがおられたらそこで働いたりする人が増えてきたというのも聞いたので、そういう人に対しての呼びかけもしたら、定着率も良くなるんじゃないかなと思いました。

#### ■会長

UターンとIターンの間みたいな感じですね。そうしたところ、Uターン、Iターンはよく一般的に使う言葉で、孫ターンは初めて聞いたんですけども、認知度にもよりけりかもしれませんけれども、補足説明とかあってもいいし、やってみることも可能かもしれませんね。

ほかにごございませんでしょうか。おそらく今ここでいろんな意見を出してもらって、それがすぐに反映されるかどうかわかりませんが、またちょっと事務局と部会の方で検討していただきたいと思います。

それでは、次の基本目標の2のところを中心にいきたいと思います。15 ページから22 ページの間にかけて。基本目標のイ)とウ)の項目のところは新規の事業が数多く並んでいるところかと思っています。ア)は継続が多いですけども、こちらの方はいかがでしょうか。

#### □委員

15 ページの冒頭のところですけども、この内容を一通り見てみますと、農林水産業とか、新規で事業を起こす人だとか、観光産業とか、キーワードをあげるとそうい

うところに力を入れていくというような内容に読み取れるわけですが、当然平戸市内にはそれ以外の業種の方もいらっしゃるということで、中小企業の育成に取り組むといいでしょうか、過去何回か発言させていただいているんですけども、その中で本市を代表する中核になる企業さんを育てていくというふうな考え方を、できましたらちょっと一歩踏み込んで、ちょっと元気が出るような方向性を打ち出すということで上げていただければなと思っております。その中核企業というのは、前からお話しております、人口減少というのは避けようがないので、要するに平戸に拠点を置きながら、市外、県外で仕事をとってきて企業安定成長をしていただくような企業が複数社あることによって平戸の経済、産業が安定すると、それがひいては雇用の受け皿ということに繋がると思っておりますので、こういった方向性の部分をできれば織り込んでいただきたいなと思っております。

そのへんで具体的なものはおそらく 22 ページに繋がるところだと思いますけれども、この内容を見ますと、ちょっと平戸の中小企業で頑張っている方のメッセージとしては、ちょっとどうなんだろうというところが感じられるところが一つあります。

それと 22 ページのところでご確認なんですけれども、エ) の産業の育成と支援というところで、まず最初の 1 つ目の文章で、製品輸出ルートの整備を図っていきますというところで、これは海外輸出を視野に入れているというようなことで理解していいのでしょうか。販路を開拓するとか、そういうあれではなくて、海外輸出と、イメージがちょっと繋がらないところがあるんですけども。その 2 点をまずお尋ねしたいと思っております。

#### ■会長

まず一つは、中核企業の産業育成というものが表に出るように、それから輸出というのが貿易のことを指しているのかどうかというところのご質問だと思いますけれども、事務局お願いします。

#### ◎事務局

これは今おっしゃる通りに、輸出、海外を含めた展開の文言でぶら下がって、事業にも関わるんですけども、書き出しの前段がどちらかわからないような形になっていて、最後の輸出という言葉が出てくることによって海外という局地的な捉え方ができるようになるんですけども、その下に海外輸出という列記がございますので、ちょっとここは国内を上でこうするというか、海外と切り離れた書き方にするというか、ちょっと詰めていきたいと思っております。

#### ■会長

ちょっと私も、ずばり経済の専門の研究者ではないので、どういったらいいかわからないんですが、国内も含めたら移出という言葉がいいんじゃないかなと思うんです

が、ちょっとそこは私も自信がないので確認していただきたいと思いますが。産業連関なんかもそういう言葉が出てきたりします。

あと、確かにこの並びで見ると、農林業、水産業、観光とあるので、そこがメインに出て、ちょっと隠れてしまう産業もあつたりするということは確かに感じました。

例えば、これは順番を変えてエ)を一番最初に持ってきて、そこをカットしてから、あと農業とか水産業とか観光という書き出しの仕方なんかもあるかなと思いましたが、エ)を最初に持ってきてちょっとまずいところがあるかなと思って、主な事業とか書きぶりを見てもそんなに出だしに持ってきてもおかしくはないかなと思うんですね。空き店舗の活用とか、商業の問題に関しても、やはり小売業とか結構どこでも産業の中心になっているから、重要な部分ではあると思いき、そのうちの特に平戸ということであると、農林業、水産業、観光に力を入れていただければと思いますけれども。

他に皆さんの方からございませんか。

#### □委員

16 ページですけれども、農林業の振興ということで、一番上の白丸のところですが、担い手対策について、新規就農者及び農業後継者に対して関係機関ということで、うちも一番の目標は農業高校の中では農業後継者の育成ということで、市の事業の中に入ると思うんですけれども、特にその下の 16 ページの第一次産業魅力発見事業（イメージアップPV制作事業）ということで、実際に農業をやっている方も市報の表紙で出てきておりますけれども、今から農業をやるという高校生も、イメージアップビデオの中に取り入れていただければ、やっぱり高校生もそういったことで、地元の農業で頑張ろうというようなこともあるし、うちの学校の宣伝にもなりますので、そういったものも含めて、まだよくわからない部分というのが結構あって、農林水産業に限らず、うちは福祉を教えて、農業高校の中でも福祉というか、初任者研修といいますか、ヘルパー2級とか、そういったものもありますので、うまくそういったものもイメージアップの中に、ここじゃないですけれども、先ほども出てきたと思いますけれども、農業に対する後継者というのがうちにもおりますので、そういったものもクローズアップしていただければ、さらに若者が農業をしたいなというものもあるんじゃないかと思っておりますので、もしよろしければそういったものも検討していただければと思います。

#### ■会長

この事業の中にそうしたことも忘れずに書き込んでいただければと思います。後継者という点でいうと、地元の農業高校が非常に大事ななと思います。

#### □委員

22 ページの(エ)の産業の育成と支援の中の3つ目の丸なんですけれども、商店街活性化のため、従来の来客型からとあるんですけれども、商店街というのは来ていただかないとダメなんですよね。ですから、この意味と下のビジネスチャレンジ事業とか、空き店舗活用事業とかあるんですけれども、来客型から変わっていかねばならないというふうな捉え方になるんですけれども、これはどういうふうな下との関連があるんですかね。

もう一つ、町並み、町家の付近とか、国、県、市のお金をいただいて改修がどんどん進んでいます。町並みを活用した商店街づくりという前向きなスタイルを世界遺産の効果も含めた、それは実際に私たちがソフト事業をしていかなければならないんですけれども、町並みを生かした商店街づくりとか、ソフト事業とか、そういったものを盛り込んだほうがいいかなというふうに思いますけれども。

#### ◎事務局

そうした意味で、ここは商店街の活性化のためという文章が続くんですけれども、商店街の活性化と、というふうな感じなのかなと思うんですけれどね。最近商店街の活性化というと、人口を取り上げているので交流人口というか、いわゆる観光客を当て込んだような活性化というものが結構行われていると思いますし、それは今後観光客が増えたりすると期待はできるので、ちょっとここは切り離れたほうがわかりやすいのかなと思いました。確かに、従来の来客型から、少子高齢化社会の要望に比べると、これは移動販売とか通販とか入ると思うので、それが入ってくると商店街に来る人が減るということなので、そこはそこで、外からお客さんを呼ぶということがいるのかなと思いますけれども。

#### ■会長

これを見ていると、商店街は活性化は難しいから、もっとほかの方法でやりなさいよというようなことに、ちょっとそういう解釈ができますので、しかし、商店街としては今の状態で来てもらわないとやはり町の流れもないし、いろいろなところに来たついでに、いろいろなところの商店街、商店で買い物していただくということが大事。それと当然人口減少は避けられませんので、それプラスの、ほかの売り方というか、今はインターネットとかいろいろなことがありますから、それを活用しながら、それは両方ともやっていくということが必要かなと思います。特にこういうふうにして、だんだん市場が縮小すると、特にやはりいろいろなある程度の商店が残っていないと非常に街全体が困るということになるだろうと思うんですよ。やはりある程度歩いていける距離にいろんなお店があつてということ、やっぱりそれを守っていくという意味では、やはり商店だけの努力と、それから町はやっぱりそういう人たちを、そういう商売をしている人を支える。行政も支援するということがないと難しいかなと思うんですよ。そういうことでだんだん市場が縮小しているにも関わらず、いろんな

店が大手のディスカウントストアなんか来てますので、それに伴う商店街がどんどん疲弊しているという意味でも、何とかこれを残すというようなことをみんなで守ってもらい、そういう気持ちを持ってもらう必要があるかなということを感じます。

#### □委員

一つは商店街ということになったら来客が重要なので、商店街の活性化と次のような事業ということで、実際に下の事業を見ると、空き店舗の活用とかで商店街を活性化していくという事業もあるし、おそらくほかのビジネスチャレンジとか六次産業化もそうかもしれないんですけども、いろいろな販売システム、新しい販売システムの構築とか通信販売なんかもそこでサポートしてもらえるんじゃないかなと思うんですが。

#### ◎事務局

ちょっと今のところですけども、表現的にどちらかというと従来の来客型に加えという表現だったらつながると思いますが、そういう意味合いですかね。

#### ■会長

後ろのほうが大きくなってしまうと、確かに人は来なくなるという感じがするかもしれません。他にございませんでしょうか。

#### □委員

平戸市の場合は昨年、ふるさと納税日本一になって、今年も年末までに 20 億ぐらいという形なんですけれども、総合戦略を見るとふるさと納税があるのが 1 ページと 15 ページしかないということになっているので、できれば 20 ページの観光の振興のところにふるさと納税の寄付者との交流を図りますというぐらいな感じで入れておいたほうがいいのかなと思います。ふるさと納税に直接絡んだ施策がないかなという感じがします。

#### ■会長

ふるさと納税の趣旨がちょっと十分に勉強していないところがあるんですけども、観光なのか産業振興なのか、税収アップというのが一番大きいんでしょうけれども、どこにかけたらいいいのかちょっと難しいところも。

#### □委員

おそらく全部に関係して、産業振興も観光の交流人口拡大も、知名度アップも全部いけると思うので、一つぐらいどこかに入れておいた方がいいのかなと思います。

■会長

もうちょっと表に見えるような形で。

□委員

メディアとしたら、おそらく日本一になったところが総合戦略にどうからめてくるかというのが注目点ではあります。

◎事務局

おっしゃるとおり、一次産業の恩恵もだいぶ受けていると思いますので、この計画が5か年間であれば、ふるさと納税もまだ続くと思うんですよね。

□委員

今のところ7万人から8万人まで寄付しているんです。平戸市の人口の3倍近い人をそこに抱えているということを考えたら、ある程度平戸市とつながりのある人を呼び込んだ方が観光振興についても戦略のあてがあると思う。

■会長

どこかでそれをこの総合戦略に入れてほしいというふうなご意見で、いろんなところにかかるかとは思いますが、他にございませんでしょうか。

では、次の基本目標3のところをご意見を頂戴したいと思います。子育て支援等のところでは、新規の事業というのはかなり絞られた形になっているかと思うんですが、最後に残された課題のところには、この前もちょっと出ていた産婦人科医の問題だとかも出ていたかなと思いますが、実現可能性のあるところから絞り込んでいるところもあるかと思いますが、ご意見をお願いいたします。23ページから28ページにかけてですね、いかがですか。

□委員

24ページの放課後児童クラブの推進というものと、主な事業の一番下の放課後子ども教室開催事業というものの違いというのがよくわからなかったんですけれども。

◎事務局

放課後児童クラブの推進は今年度からやるということが決まっている事業です。それと継続の関係で。

◎事務局

私の方から。まず本年度から取り組みを行っております放課後児童クラブですけれども、学校が3時くらいで終わって、その後、家庭に帰るんじゃなくて、今現在、田

平地区だったら町民センターの方にまとまって集まって、親が大体7時ぐらいまで毎日預かっている。それが放課後児童クラブでございます。

放課後子ども教室というのは、例えば土曜日とか日曜日に公民館等で将棋を行ったり、囲碁を行ったり、そういう、いわば文化的なクラブ活動を公民館で行うものです。放課後児童クラブの中でも、場合によっては土曜日とかでそちらの子ども教室で、一部の子供さんが行って行ったりという現状はございます。ただ、事業的には別ということでご認識をいただければと思います。

□委員

場所も別ということですか。

◎事務局

そうです。元々、放課後児童クラブは空き教室を使用してする事業なんです。田平が3つ小学校があるんですけども、それぞれの学校には田平は少子化のことも考えて、1つのところにするときに、田平の北小学校に予定しているんですが、北小学校は最近作ったばかりの学校なものですから、空き教室がないんですね。ですから、田平地区は1つにするということで別の施設を作って、そこに放課後児童クラブを開設しています。ですので施設整備ということで書いているんですけども、既に平戸小学校とか生月小学校とかにはありますので、福祉の方でニーズ調査をしていますので、それに向けて整備を図っていくということで、田平だけはちょっと空き教室がなかったので作るということで整備をする。下の方は今説明したように公民館とかへの教室になります。

□委員

では、別団体が運営しているということですか。

◎事務局

そうです。

■会長

ちょっと取組内容が違うということですね。

◎みらい研究所

補足で私の方からさせていただきます。放課後児童クラブは厚労省の管轄で、放課後の居場所づくり、親が働いている方のためのグループといいますか、そういった時間の預かり方をするところで、もう一個の放課後子ども教室は文科省の括りで、主に教育委員会が文化活動というのが一番多いんですが、やっぱりリタイアされた高齢者

の方々が地域の教師になって、教師の代わりだったり、伝統遊びですとかコマ遊び、将棋といったものを子どもたちに教える機会を提供するという形で、まず大きく目的が違います。

放課後子ども教室もどの児童さんも入れるんですけれども、特に放課後子ども教室の方は、家に親がいるんだけれども親と過ごすというわけではなくて、みんなと過ごす場所という作り方というのもありまして、特に目的が、預かる場所と学習する場所という大きな違いがあります。

□委員

その場合、お金も放課後児童クラブとかは何千円かしますけど、こちらの教室とかは取っていないということですか。

◎みらい研究所

学校ごとの教室において教材費みたいな取り方で、すみません、ちょっとお金の集金の仕方が学校ごとに違うので。

■会長

そういうところで補助の先が違うということで、もちろん連携が必要な部分もあるのかもしれないと思いましたが、どうでしょうか。2つの事業がありますが、違うところから出ているということですね。他にございませんでしょうか。

□委員

総合型スポーツクラブというのは、これはいわゆるたびスポとか、田平にあるものとは別なんですか。

◎事務局

同じです。

□委員

ということは、初めての感じですか、新規。新規の星マークをつけてもいいんじゃないですか。

◎事務局

今現在、田平のたびスポさんも2年前から、大体3年間でステップアップが終わりまして、4年目からは自前で、3年間は補助があるんですね。終わったら独り立ちするようになるんですけれども、そこで法人格とかNPOになったりとかして、これは複数のスポーツが必ず必要なので、今はサッカーとバレーとか、小学生ですね。その

中で送迎をやってみたりとかキャンプをやってみたり、講演会をやってみたりとか、ものすごく多角的にたびスポさんは運営されているんですけども、そういった新規ぐるみのいろんな幅広い会員さんを集めてのやり方を田平だけが突出して実施しておりますので、できれば生月でも大島でもそういうものができていけばいいなということに取り組んでいるところでございます。

#### ■会長

他にありませんでしょうか。ではまた、もし思い出されたら戻るということで、次は基本目標の4、29ページから35ページにかけてですけども、こちらの定住・移住の促進というところでご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

#### □委員

全体的な話にはなるんですが、31ページの安心安全なまちづくりのところ、KPI、主な事業で、防災士資格取得者数が61人から163人、2倍以上の数になっていますけれども、これは主な事業と照らし合わせたときに、これは何に対応するのか、KPI数値目標を達成するための事業と噛み合っていない部分も結構あるのかなと思って、防災士の取得者数も、取得するには試験料とかはたぶん何千円とか発生するでしょうし、講習会は一定期間受けないといけないですよ、それにもし平戸でやらなかった場合は負担もかかるわけで、例えば補助事業もありますよとかいうのがあるのかなと思ったけど、それもないですよ。

それで35ページの市のホームページアクセス数、これも結構アクセス数伸ばすのはかなり大変なことだと思いますけれども、そのための施策というものの、事業は、ちょっとこれも噛み合うものがないのかなと思って、例えばホームページを見ればふるさと納税のポイントが例えば10ポイントもらえますよ、1回のページビューとか、そういう事業を立ち上げたりというふうなものとかあればわかるんですけども、このぱっと見、文章を見た限りでは、この目標値を達成するための事業、どういったことをするのかなどというのが見えないところが幾つかあるのかなと思いました。

さっきの基本目標3のところでも、平戸検定数を50%にという、子供たちのやつだと思ってしまうんですけども、その部分でもそれを支援するための事業というの、あまりぱっと見、見つからなかったんですけども、小中学生のふるさと検定取得者の割合が50%になっていきますけれども、平戸学推進事業が当たるのかなと思うのですが、これは検定取得とあまり関係ないような気がするんですね。だから、もしその事業の中に含まれるのであれば、もう少し事業概要の説明を増やしてくれたらなと感じました。

#### ■会長

どのようにして、この指数を高めていくのかということが事業の中では見えないと

というようなことですが、すけれども。

◎事務局

ホームページのところなんですけれども、今年度、今、だいぶ改修中で、3月に試験というような形で載るようになっていきます。大幅なリニューアルが本年度で終了するものですから、事業としては上げてなかったんです。今年度に含まれますので上げてよかったと言えそうなんです、来年以降が保守、二次保守だけになってしまう関係で、そこら辺の記載はしていません。

■会長

防災士の方は何かありますでしょうか。

◎事務局

防災士は自主防災組織に絡みがなってくるんですね、確か県に登録したら試験代を県が負担してくれるというところもあるんですけど、全ての人がそれに手を挙げるかといったら、個人の考え方にもよるんでしょうけれども、登録すれば受験料は戻るといいう制度がございます。それを踏まえた上で、資格を持った方を増やして自主防災組織の中で専門的な知識を持った方も踏まえての地域ぐるみでの防災対策にも生かしていきたいという形でのものです。

■会長

一言その中に防災士資格取得を支援という一文でもあればいいのかなと思います。

◎事務局

今のところ、今言ったように自主防災組織育成支援事業の中で防災士を増やしていこうという話をしています。今、予算査定をしているんですが、今上がってきている中では、自主防災組織自体が結成は100%になりましたので、今から防災組織が有事の時にきちんと活動できるということが大切ですから、それを強化しようということで、研修とかの強化を今ちょっと考えています。そういう研修をする中で防災知識をつけたりして、防災士の取得を上げていこうという計画をしているんですが、具体的に取得支援に対する、今言いました受験料の支援とかというものまでは今考えていないんですけれども、今後、そういうような受験者が増えてきて、そういうニーズが高まればそういうことも考えられるかなと思いますけれども、今のところそういった研修の強化とかということの中から防災士の受験者を増やしていこうと計画しています。ですから、文言がそこらへんちょっと少し足りないところもありますので、そこらへんはちょっと書き込んでいかなければいけないところかなと思います。

#### □委員

30 ページの移住の推進のところなんですけど、もし私が移住をしようと考えている人間であれば、住とか自然環境の整備は、それはもちろんなんですけど、そこにいらっしゃる人、住んでいる方がどの程度魅力のある方かなと、そこに人の魅力があれば一緒に行ってお隣さんに住みたいとか、やっぱり一番キーポイントはそこに住んでいる人だと思うんですね。例えば大島なら大島にいる私たちの受け入れる者の心とか人間というものが一番のポイントだと思うので、ずっと事業とか見てみると、受け入れ側のソフトの部分のことが全然触れていないように思います。まだまだ田舎の方は移住者に対してよそ者という見方が強くありますので、私たち受け入れ側の人間の仲間として受け入れようという思いを熟成させるような、そんな研修とか、そういう機会も、移住をしてくださいというばかりではなくて、そこらへん、受け入れる方の勉強も大切かなと思ひまして、結局それは、今推進されていますまちづくり、コミュニティの方とタイアップさせてできることかなと思ひました。その辺もちょっと触れていただけたらなと思ひます。

#### ■会長

文言を付け足すとすると、受け入れ側の方ですね。他にないでしょうか。

#### □委員

移住に関連してなんですけれども、移住者はそれぞれ来たとしても、おそらくある程度孤立してしまう可能性とかがあるので、移住者の協議会みたいなのができないかなというのが1つと、移住者同士が情報交換をしたりとか、どういう困っていることがあるのかについて市に要請したりとか、そういう協議会があればいいなと思ひます。

あと、35 ページですが、県主催等の移住相談会に積極的に参加しというのはいいと思うんですけれども、あともう一つ、NPOでふるさと回帰センターというのがあると思うんですけれども、移住とかに積極的なところはふるさと回帰センターと組んで移住相談会とかホームページの情報発信とかやっていると思うんですけれども、平戸市はあまり移住政策に対しての情報発信が弱いような気がするので、ふるさと回帰センターと組んでやったほうがいいのかなという感じがします。

ふるさと納税でもふるさとチョイスに登録することによって、全国からの注目を集めたので、ふるさと回帰センターとか、移住性に詳しいようなサイトとタグを組むことのいいのかなと感じております。

#### ■会長

全体的に見ると、それぞれの取り組み、もうちょっと今言ったような具体的などころまで書き込んでもらえればいいのかというのと、そして主な事業でそこがうまく見えるようにしてもらえればなというところがだいぶ意見があります。もう少し見や

すいようにというか、具体的にわかればというところがあったのかなと思います。

最後のところも含めて、何かありましたらお願いします。例えば、ちょっと私の方からだと、今、移住というようなこと、これは人口回復で非常に大事な、Uターン、Iターンとか、先ほど孫ターンというようなお話もありましたけれども、私は今後、二地域居住というか、2地点居住というか、別荘の場所として平戸市を活用する人も出てくるんじゃないかと思っているんですね。西九州道の方がどんどんと整備されていくと、福岡のあたりでいうと、週末の釣りとか、ちょっとレジャーなんかすごくいい場所で、そうした人たちの受け入れというか、そうした人たち向けの不動産の開発なんかも、これは市が努力しなくても、ひょっとしたら民間がやってくれるという可能性もあったりするかもしれません。人口回復というのはなかなか難しいんですけども、今、日本の人口統計では居住地ベースでしか人口出ていませんが、石垣島に行った時にはやはりこうした別荘として持っている人がいるので、国勢調査でも実際にはそこに住んでいない人が出てきたりするとか、住民票をお持ちかどうか知らないですけども、そうした人も出てくるかなということは思っているんです。

既にヨーロッパだったらフランスなんかの人口統計は、自分の住んでいるところと別荘と両方で出したりしているんですけども、今後、定住人口とか交流人口以外に、週末だけ平戸市にという感じの人の受け入れ態勢も必要かなと思っているのと、そこからまだまだ行政が積極的にやるのがちょっと危ないというのであれば、福岡との交通の便がよくなった時に、そうした人向けの住宅を作ったり、景色のいいところとかということで、不動産業者に投げかけてみるということもできるんじゃないかなと思ったりしています。

金持ちじゃなくても、ちょっと下のレベルぐらいですね、ある程度お金がないとそうしたことはできないと思うんですけども、ちょっと別荘が欲しいなという人は、今後日本の人々の暮らしがどうなるかわからないですけども、中間層ぐらいの人たちでも出てきたりするんじゃないかなと思うんですね。例えば家庭菜園なんかも、そうした形での移動というものがあるかと思います。それこそ小さな小屋を立てて、ちょっと週末、平日だけちょっと庭いじりに来て、休憩できるような施設があったらいいという人なんかも、今後福岡へのアクセスが今後、西九州道とかできて良くなっていくと、これは平成31年以降の問題かもしれませんが、また検討していただければなと考えております。

あと、全体的に皆様の方からご意見がありましたらどうぞ。

#### □委員

ここの話とは違うんですが、今、市民の中で市民版の総合戦略を作ろうとしているグループがあるんですが、ご存じですよ。今年いっぱいで作ろうという計画をされているんですが、それを作ったら市の方に上げようとされているんですが、それとのすり合わせは何か考えていらっしゃるんですか、作られたものに対して。

◎事務局

そもそも、市民版の総合戦略を作るという団体があるということ自体知らないんですが、どちらですか。

□委員

私はまちづくりの審査でこの前上がってきているんです。

◎事務局

市民委員会か何かですかね。

□委員

その計画の中に、今年いっぱい、3月中に市民版の総合戦略を作りますというのが、それができたら市の方に上げますとされているんですが、それをどのように取り組もうとされているんでしょうか。

◎事務局

一度来られたんですよ。今言われたような、市民版総合戦略を作るという話で、今から取り掛かっていくみたいな話だったと思うんです。お会いしたのが先月だったと思うんです。ちょっと今すぐやって、私どもパブリックコメントを出しますという話もしたんですが、ボランティアというか、趣味でしているところがあるので、仕事上がりとか休みの日とかを使ってやるので、なかなか進まない。1月までにパブリックコメントあたりにかかるとすると、確認する余裕もないというお話をされていて、それでは拙速なことをするよりも、来年度から10年間の総合計画策定が始まるんですけども、総合戦略は終わりに近づいてきているので、それよりか総合計画の方に自分たちが市民まで作るという方が現実的な対応ができるんじゃないですかというお話はさせてもらっています。自分たちももうちょっと早く知っていればなとかいうお話もされていたんですけども、なにせ先月の話だったので。市民版総合戦略を作って、それを生かしてほしいという願いだったんですけども、作るのではとにかく間に合わないという話だったんです。

◎事務局

後から出てくれば、活かせる、ここに反映させられるようなアイデアがあれば、それは皆さんにもご紹介して、反映させられるものは反映させるようにしたいと思いますし、今回、一応現段階では素案ですけども、実際私たちもまだこの案が本当に人口ビジョンを達成するような案になっているかということ、まだまだ物足りない部分はありますので、元々これは総合戦略はPDCAサイクルで検証しながらということに

なっていますので、今からどんどん変わる計画になるかもしれませんので、そのところは今後もより良いものにするというスタンスでいますので、市民版の総合戦略が来れば、それでいいアイデアがあれば取り込んでいくというスタンスでしたいと思います。

#### ■会長

より長期の総合計画の方でまたご意見を活用させていただければと思いますけれども、後は、このあと1月にパブリックコメントと言われていたので、その時にどれだけ意見を吸収できるかというところもあるのかなと思います。

他はございませんでしょうか。

#### □委員

あと1点、20ページの観光資源を活用した交通体制の整備に関連してくるんですけども、今は全国的に電動アシスト付自転車がブームになっていて、アメリカとか東京とかでもレンタルとかして、観光客を周遊させるというのがブームになっているんですよ。平戸の場合は交通アクセスがものすごく悪いので、周遊バスとかも検討しないといけないと思うんですけども、電動自転車のいいのは、自分の都合で動けるといふのと、健康にもいいし、自然とかも平戸の場合は川内峠とか根獅子の浜とか、ものすごくいい自然の場所があるんですけども、普通にバスで行ったら、ほとんどバスでいけない場所とかがあったりとか、バスの台数が限られていて、なかなか移動できないということがあるので、今平戸市が電動自転車を何台かは持っていると思うんですけども、それはちょっと世界遺産とかになって観光客がもっと増えた場合には、現状ではおそらく足りないんじゃないかということを思っています。

今あるのが交流センターとたびら平戸口に何台かあって、ホテルが何台かという状況だと思うんですけども、これを全体的に拡大して、例えば生月への島の館とかあの辺に置いたりとか、春日とかに置いたりすれば、春日におけば根獅子ぐらいまでは自転車で行けるということになりますし、大島、度島とかにも観光できる可能性があるんで、これは台数をもう一回見直して、どこに行ったらそれが借りられるのかということも、今はホームページ、市役所のを見たんですけども、ほとんど整備されていない状況なので、これを体系的に、どこにいけば自転車を借りられて、値段がいくらでというのをもう少し整備していただきたいなと思います。

#### □委員

電気を給電する設備がないそうです。それを作ろうとされているみたいです。I S O L Aさんでしょう。

#### □委員

I SOLAさんは免許がいる。電動アシスト。免許がなくても乗れるやつなんで、例えば1台7万円から8万円ぐらいで買えると思うんですけども、100台買っても1,000万円しないので、例えばこれ、結構ほかの自治体とかも、地方創生の交付金を見ても、結構国から下りているケースがあるんですよ。サイクルツーリズムとかで本格的にやっているところは。交付金が下りる可能性があるのと、もし下りなくても企業版ふるさと納税とかを活用して、企業のロゴが入った自転車とかを寄付してもらえば、世界遺産のところに自転車を寄付するということになるので、企業の知名度アップにもなるので、そういうことも視野に入れて働きかけてみたらいいかなという感じがしました。

#### ◎事務局

ありがとうございます。今までの補足をさせていただければ、春日に5台、今年度の予算で計上しております。観光協会が10台以上、各ホテルに2台ずつ、5～6年前に入れました。MRさんもございます。あと大島にも確かNPOさんが電動自転車の貸出をされておまして、5台ぐらいあります。それでやっていますけれども、確かに包括的に例えば1箇所見たらどこに何があるというのはございません。そういった面も含めて活用していくことも大事なことだと思いますので。

#### □委員

田平にあれば田平天主堂まで行けたりとか、数が5台あるということですがけれども、それがあれば公民館から春日川と棚田の上まで歩いたら20分ぐらいかかると思うんですけども、自転車で行けばすぐにさっと行けますので、そういうのをすれば世界遺産関係にもいい影響があると思います。県内でおそらくサイクルツーリズムとかやっているところはあまりないので、平戸市が本格的にやれば、これは県下で一番最初にできると思うんですね。おそらく長崎市とかは坂が多いのでなかなかやりづらいところがあると思うので。

#### ◎事務局

一応、世界遺産関係では増やしてもらおうよう要望は上がってきていますので、その中で対応していくというのと、ちょっとI SOLAの話が出ましたけれども、免許を持っている方はI SOLAでもいいのかなと思いますので、今、産業振興の面もありますので、サイクルとI SOLAと、ある程度それでもいいのかなと思っています。

#### □委員

統一したホームページか何かあればいいと思います。

#### ■会長

結構あちこちにあるのであれば、それがひと目でわかるような情報発信が必要かと思えます。確か佐世保でも黒島のところは電動自転車、あそこは確かに港を降りたらすごい坂があるんですけれども、特に島の、小さい的山大島みたいなところだったら自転車も管理しやすいのかなと思えますけれども、平戸とか生月全体となると、電動自転車でも大変じゃないかなと思ったりしました。ああいうところが真っ先に実験としては一番いい気がします。管理もちゃんとできるんじゃないかと思えます。

他にございませんでしょうか。総合戦略全般で。今出てきた意見は、また事務局の方でまとめていただくということで、もちろんまだ事務局の方で判断して加筆するかどうかということも決めていくかと思えますが、そういうことでよろしいでしょうか。

#### ◎事務局

加筆修正関係につきまして、今日ご意見いただいたものもごございますし、21日に議会の方にもお示しするようにしております。バツマルも一つの手ではあるんですけれども、とりあえず大きな変更がなかったら、文書で皆様に送らせていただいて、確認をとっていただいて、最終的な原案としてのつくり方をしようと思っております。それでよろしいでしょうか。

#### ■会長

よろしいですか。そうしたら、また修正したもの、議会の意見も。

#### ◎事務局

一応、今日の意見と、また議会からの意見があると思えますので、それを踏まえて正誤表みたいな形で皆様にお配りしていただいて、また意見があればいただいて、最終的に1月にパブリックコメントをかけて、2月にこの会を開かせていただきますので、それで最終案を作りたいと思えます。

あと、文言等については今回訂正できますが、施策については担当課に投げまして、反映させられるものがあれば反映します。

#### ■会長

主に、大体皆さんが考えられているような事業は盛り込まれていたと思うので、それがちょっと見えてこないというところの課題があったのかなと思えます。

では一応、議事の1番目、平戸市総合戦略案については終わりとしてさせていただきます。

2番目、その他について。

#### ◎事務局

郵送で送らせていただいておりますけれども、皆様方のご意見に対する対応関係

をお配りさせていただいておりました。そこで空白のところの件につきましては、採択ができなかったという形でのもので、一番右に引き続き協議検討とか丸とかいう関係は、どこかで記載がされていると、盛り込まれているということでのご理解でよろしいかと思えます。

右から2番目のところの意見に対する回答を出した担当部署でございますが、その横に対応等という欄におきまして理由関係を明記させていただいておりますので、これはご確認していただきまして、お許しいただきたいと思っております。

■会長

この件について質問等ございませんか。

では、これで第5回平戸市総合戦略策定委員会を終わらせていただきます。

◎事務局

先ほど申しましたとおり訂正が参りますので、その間でも結構でございますので、ご連絡をいただければと思います。

本日はどうもお忙しいところありがとうございました。

(閉会 15:27)